

慣性正矢軌道検測装置

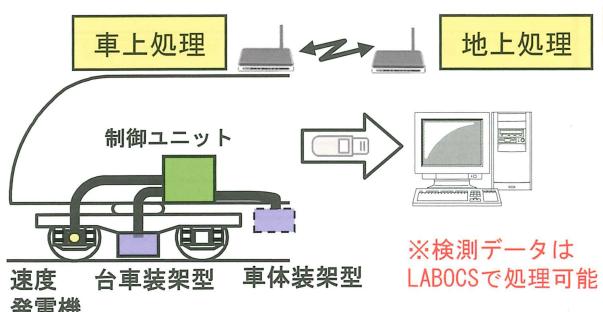
軌道技術研究部

営業車両に搭載可能な軌道検測装置

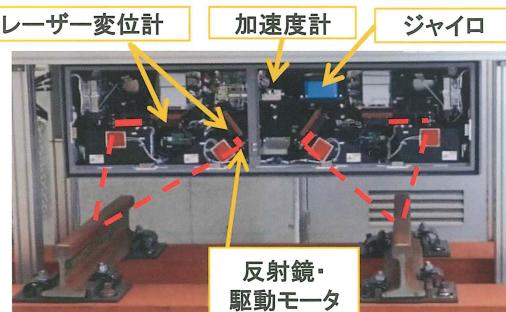
鉄道の軌道管理では、軌道変位の定期的な検測が必要です。鉄道総研では「慣性測定法」と「正矢法」の演算を組み合わせ、1台の装置で従来の軌道検測車と同じ軌道変位波形を出力できる、営業車に搭載可能な軌道検測装置を開発しました。

【特徴】

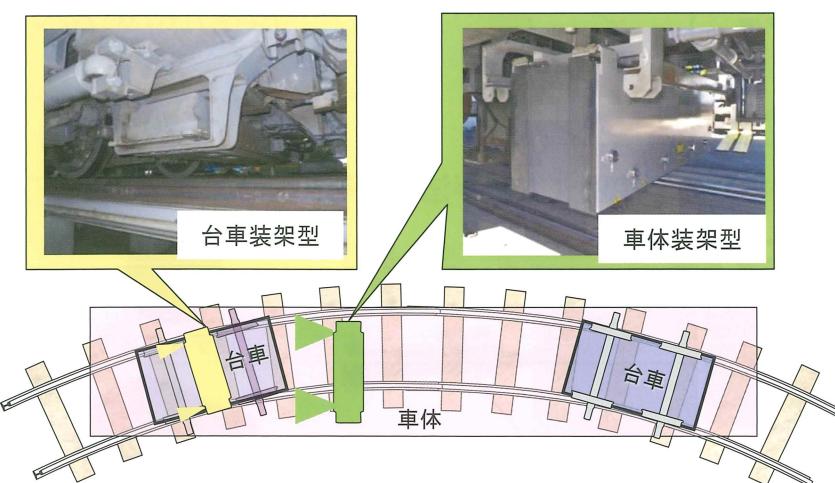
- 営業車に搭載することにより、軌道変位の状態を毎日把握できるため、軌道の維持・管理の信頼性向上や効率化に活用できます。
- 検測ユニットは、取付車両に応じて、標準軌用と狭軌用、台車装架型と車体装架型を選択できます。
- 台車装架型はレール以外の物体がレーザ変位計の検出範囲に入りにくいなどの特長があります。車体装架型は、車両構造の大きな見直しが必要ないことおよび台車装架型と比較して振動対策が軽微で済むことなどの特長があります。



検測装置の全体構成



検測ユニット内部の構成



台車装架型装置と車体装架型装置の搭載例